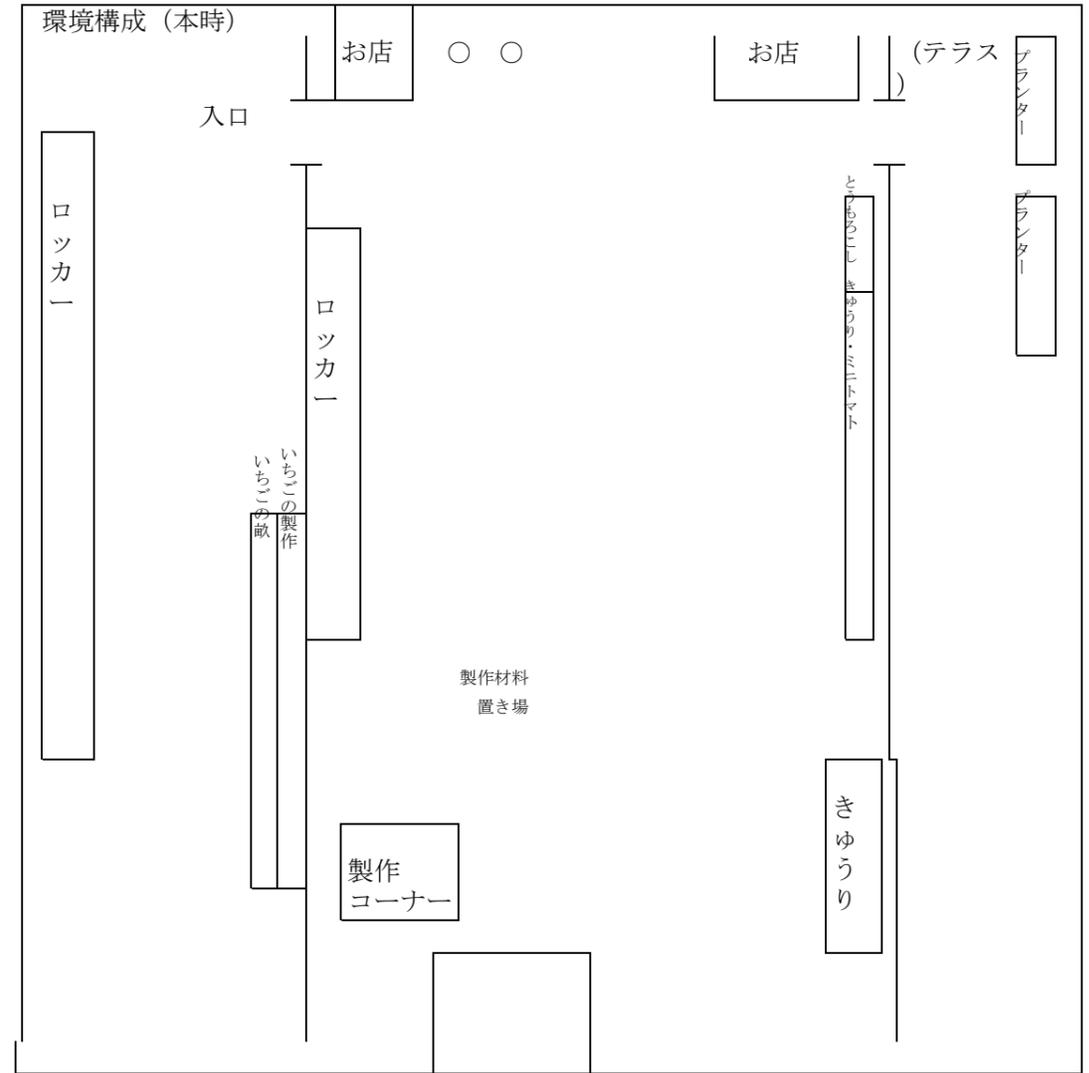


「つき組農園へようこそ」指導計画案

題材名	つき組農園へようこそ		対象年齢	4歳児 前半
遊びのプロセスの種類の種類	遊びへの没頭			
	つき組保育室の農園で、果物や野菜の収穫体験をしたり、それを使って飲み物や食べ物を作り飲んだり食べたり、お店で売ったりして、友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを展開することを楽しむ。			
時期	7月中旬から7月下旬			
ねらい	領域	(環境) 収穫、栽培体験、農園のごっこ遊びへと、遊びの連続性を生かしながらイメージを深めて、果物、夏野菜等を製作したり、遊びに必要な物を製作したりして、それらを使って楽しく遊ぼうとする力を養う。 (表現) 農園でのごっこ遊びをもとに、更に遊びを展開させながら、感じたことや考えたことを、個々に、または、同じ場にいる友達と一緒に楽しく表現する力を養い創造性を豊かにする。		
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	(自立心) 体験したことをもとに、農園ごっこ等の遊びに必要なものや役割を主体的に創り出し遊ぶことを楽しむ。			
	(豊かな感性と表現) 農園ごっこやお店屋さんごっこ、バスごっこ等を通して、自分なりに気付いたことや感じたことをもとに、イメージをふくらませて表現しようとする。			
	(思考力の芽生え) 農園ごっこからの遊びの展開を友達と一緒に考えたり、工夫したりして創り出すことを楽しむ。			
環境構成	場所・材料・用具名		配慮する視点	
材料	子ども	クレヨン、はさみ	はさみの取り扱いでは、安全面に十分に配慮するように言葉がけをする。	
用具	教師	プランター (3)、支柱 (3)、いちご等の製作物、テーブル (1)、セロテープカッター (4)、木 (2)、製作材料 (折り紙、カラーポリ袋、画用紙等) 大型バス (2)、バス停 (2)、段ボール箱等	プランターの栽培物や木は、倒れないようにしっかりと固定しておく。製作コーナーのテーブルは子どもの動線を考慮して設定する。製作材料は、分類して製作コーナーに準備しておく。保育室の空間は、中央を開けておき、子ども達が活動しやすいようにする。	
場所	つき組保育室、つき組前の廊下、テラス		危険な物がないか事前に安全確保をする。	



遊びのプロセス	主体的で対話的な深い学び (アクティブラーニング) の視点		
	子どもの活動 (□)	教師の援助 (●) と予想される遊びの姿 (○・育ってほしい姿)	主になるごっこ遊びのオモシロサの5要素
【はじまり】 (遊びの創出)	□個々に自分がやりたい遊びを見つけ、製作したり、お店屋さんの開店に向けての準備をする。	●子ども達の様子を見守りながら、保育室内の環境を一緒に作り、個々のやりたい遊びへの活動意欲を高めていく。	(想定)
【展開】 (遊びへの没頭)	□「いらっしゃいませ○○はいりませんか?」「おいしいですよ」等と果物や野菜の製作物を売ること、楽しみながら、意欲的にお店屋さんごっこをする。 □いちごやさくらんぼ等が不足すると、木や畝、プランターから収穫してきて販売しようとする。 □ままごとコーナーをお店の台所に見立てて、ジュースやプリン等を作り販売を始める。 □お店で買った物をテーブルや椅子のある場所へ行き、食べるまねをする。 □「○○おいしそう」「○○一つください」等の言葉のやりとりから、友達の作るものや「ごっこ」遊びの様子を見たり、まねたりすることで、交流が活発になり、「ごっこ」遊びのイメージをふくらませる。	○自分がやりたい遊びりに必要なものに気付き、それぞれで準備し、自分のペースで製作活動やごっこ遊びの始まりを楽しんでいる。(思考・表現) ●教師も子ども達の様子を見守りつつ、時には必要に応じてお店屋さんやお客さんになったりする。 ●販売するお店は、子ども達と一緒に並べて準備する。 ●遊びの場が乱雑になってきた場合には、子どもたちにもそれに気付かせ、安全に遊ぶことができるように一緒に場を整えていく。 ○友達の活動の様子を見たり、友達のまねをしたりして、大量に物等を作ることの必要性に気付き、製作する等して補充したり、一緒に遊びに必要な物を創り出そうとしている。(思考・表現)	(記録)
【まとめと発展】 (遊びの振り返り)	□バスを走らせお客さんをバスに乗せて農園に連れてくる。 □今日は、どのようなことをして遊んだのか、心に残ったことを振り返る。	●他クラスの活動を把握し、バスを走らせる時間を設定し、子どもに知らせる。	

△改善点 (「ごっこ遊び」) よう (○) ができた

■事前に子ども達と一緒につき組農園ごっこに必要な物を確認する。  
○それぞれに、自分の遊びに必要な物を準備して遊び始める。  
○夏野菜や果物を使って、ジュース等を売るお店ができる。  
○バスを走らせる等、色々な役になって遊ぶことがおもしろい。  
■必要に応じて教師もいちご狩りごっこ遊びの仲間入りをして、友達同士の関わりを広げ、遊びが活発になるようにする。  
■安全面に配慮し、遊びの場を子ども達と一緒に整える。

		<input type="checkbox"/> みんなで後片付けをする。 <input checked="" type="checkbox"/> 今日はどのようなことをして遊んで楽しかったのか等遊びを振り返り、今後の活動に繋いでいく。 <input checked="" type="checkbox"/> 所定の場所に片付けるルールを学べるように促す。			
評価	領域	(環境) 子ども達が遊びのイメージを更に広げ、遊びに必要な物を製作したり、製作物を使って遊ぶことを楽しんでいる。 (表現) 子ども達が更に遊びを発展させていく中で、感じたことや考えたことを、個々に、また、同じ場にいる友達と一緒に楽しんで表現している。			
	幼児期の終わりまでに育てたい姿	(自立心) 体験したことをもとに、農園ごっこ等の遊びに必要なものや役割を主体的に創り出し遊ぶことを楽しんでいる。 (豊かな感性と表現) 農園ごっこやお店屋さんごっこ、バスごっこ等を通して、自分なりに気付いたことや感じたことをもとに、イメージして表現しようとすることを楽しんでいる。			
		(思考力の芽生え) 農園ごっこからの遊びの展開を友達と一緒に考えたり、工夫したりして創り出すことを楽しんでいる。			